

# 1 事業目的と事業の流れ

## 1.1 本事業の目的

曹洞宗大本山永平寺は、道元禅師が開山して以来 700 年間変わらぬ修行道場である。今も日本全国から修行僧が集まっており、また、年間 58 万人（平成 22 年度）が参拝する。

永平寺の敷地（約 33 万㎡）には、「七堂伽藍」（山門・仏殿・法堂・僧堂・大庫院・浴室・東司）など 70 余棟の建造物が、樹齢 600 年を越える老杉の巨木に囲まれて静かに佇んでいる。

この修行道場である永平寺と、周辺の門前町・行政とが一体となり、『禅の里』まちづくりに取り組み始めた。

その取り組みを推進するに際し、文化庁の「文化芸術振興費補助金」の対象として採択され、平成 23 年度～25 年度の 3 カ年で、文化遺産を活かした観光交流・地域活性化事業を実施することとしている。

本業務は、当文化庁補助の効果的な活用を図りつつ、『禅の里』まちづくり推進のために必要な技術的支援や、会議運営の支援等を行うことを目的とするものである。

## 1.2 事業実施の流れ

